

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート事業						予算事業名		教育指導事務経費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令					
			10	01	03	05	経常経費						
総合計画体系	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文							事業の区分	主要事業				
	4-1生きる力を育む教育環境づくり (学校教育)												
	②安心して学べる学校づくりの推進							担当課係等	学校教育課				
2豊かな心の育成							指導課						
事業期間		継続 (平成27年度～令和 3年度)											
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
・不登校になる可能性の高い児童生徒の早期発見 ・いじめにあって いる児童生徒の早期発見 ・学級崩壊の予防とよりよい集団づくり ・よりよい学級経営等の指導効果の評価と検討							不登校の増加やいじめ問題の複雑化に対応するため、その早期発見・ 早期対応は急務になっている。						
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】						
・Q-Uアンケートを2回実施する。 ・専門家講師による講習を受ける。							小学4～6年生と中学1・2年生						
							【事業をとりまく環境の変化】 不登校やいじめ問題は複雑多岐にわたり、その発見は困難を極めてい る。本市でも「結城市いじめ防止等のための基本的な方針」を策定し 、その早期発見・早期対応を推進している。結城市から、重大な事案 が発生しないようにすることが、教育行政に課せられた使命と考える 。						
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】					
・Q-Uアンケートを2回実施する。 ・専門家講師による講習を受ける。				・Q-Uアンケートを2回実施する。 ・専門家講師による講習を受ける。				・Q-Uアンケートを2回実施する。 ・専門家講師による講習を受ける。					

■事業費			R01年度	R02年度			
財 源 内 訳	国	庫 支 出 金	0	0			
	県	支 出 金	0	0			
	地	方 債	0	0			
	そ	の 他	0	0			
	一	般 財 源	2,068	2,102			
歳 入 計 (千 円)			2,068	2,102			
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)		金額 (千円)	金額 (千円)			
	12 委託料		2,068	2,102			
歳 出 計 (千 円) (A)			2,068	2,102			
伸 び 率 (%)				1.64			
備 考	総合計画 157ページ 予算書 156ページ						

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	アンケート実施回数（対象学級×2回）	回	目標	150.00	150.00	150.00
			実績	146.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	不登校の増加やいじめ問題の複雑化に対応するため、その早期発見・早期対応は急務になっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政以外に実施できない事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	いじめ・不登校等の未然防止・早期発見には有効。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	検討しながら改善していきたい。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	対象学年が限られている。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	重大な事案は発生していない。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	検討しながら改善していきたい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
いじめ・不登校の未然防止・早期発見において有効であり、市内児童生徒の学校生活に対する意欲や学級に対する満足度を把握し、学級経営の改善に生かすことができている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
Q-Uアンケートの結果を生かし研修することで、児童生徒への支援やよりよい学級経営につなげていきたい。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 児童生徒の学校生活に対する意欲や学級に対する満足度を把握するための一助として、大変有効である。今後は、よりよく活用できるよう、実施の方法等を検討する必要がある。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	